

く がつ ちゅうしゅう めいげつ
9月 中 秋 の名月



こんばん ちゅうしゅう めいげつ いっしょ つき み
「今晚は中 秋 の名月だよ。一緒にお月見しよう」

うし せき わた か
後ろの席のカオルから渡されたメモには、そう書いてあった。

ユキオとカオルは同じクラスのおなじ 高校2年生だ。おなじ 1年生のころからずっと同じ
クラスだった。カオルはしゃょうでき せいかく だれ ともだち
社交的な性格で、誰とでも友達になれた。だから、いつ
も仲がよいクラスメートたちに囲まれていた。

いっぽう、ユキオは静かな性格で、一人でいることを好むタイプだ。決して人付き合いが悪いわけではなかったが、ユキオにはちょっと話しかけにくい雰囲気があった。クラスメートたちはユキオと話するとき、なぜか少し丁寧なことばを使った。

でも、カオルだけはユキオに対して、他のクラスメートと違う態度を取った。出席番号順で席順が決まり、17番のカオルの席は16番のユキオのちょうど真後ろだった。カオルは、机を少しずつ前の方に動かしてユキオに近寄り、ユキオの後ろ髪をひっぱったり、授業中でもしょっちゅうメモをよこしたりした。何かとちょっかいを出すようになったのだ。そんなカオルに対して、ユキオはたまに迷惑そうな顔をしたが、たいていはいつもの静かな態度で応えた。

2年生になる頃には、クラス全員が、ユキオとカオルは仲がいいと思うようになっていた。

お月見だと、夜に外に出かけることになるな、とユキオは考えた。ユキオの両親は食堂を営んでいた。だから、うちに帰ってくるのは大体夜の11時すぎだった。ユキオが夜遅く外に出ていくことを両親は決して許さないと思うが、両親が帰ってくる前に自分の部屋に戻っていれば問題ないだろうとユキオは判断した。

「いいよ。10時ごろには家に帰っておかないといけないけど。」

ユキオは、先生が黒板に向かって板書している間に、後ろの席のカオルにメ

モを手渡した。

夜の8時すぎ。カオルとユキオは待ち合わせた公園から、自転車で海岸の方へと向かった。月はすでに高く上り、あたりを照らしていた。

自転車をこぎながら、カオルはユキオに言った。

「中秋の名月ってさ、けっこう雨になることも多いんだよね。でも、今日は晴れるって天気予報で言ってたから、絶対にお月見したかったんだ」

カオルはいつもよりもうれしそうな声を出した。

海岸に着いた二人は、自転車を降りて、海岸沿いの道を歩き始めた。海の上では月が黄金色の光を放ち、海上ではその光を映して、黄金色の長い道ができていた。ユキオは、その上を歩いていけば、月までたどり着けるのではないかと思った。

静かな波の音、涼しい海風。ユキオは体中でそれらを感じたくて、目を閉じた。すると、自分が、波音と海風と月光の中に溶け出して、完全に変わったような気分になった。

突然、カオルが小さな声で言った。

「月がきれいですね」

ユキオは目を開いて、カオルに返事をした。

「そうだね、本当にきれいだね」

「ふふ、ユキオ、知らないの？」

なに きょう ちゅうしゅう めいげつ つき いちばん ひ
「何。今日は中秋の名月。もちろん、月が一番きれいな日でしょ。」

ちが なつめ そうせき ゆうめい ことば
「違うよ。夏目漱石の有名な言葉」

カオルは戸惑うユキオに説明し始めた。

なつめ そうせき し ほら、せんえんきつ かお の ひと なつめ
「夏目漱石って知ってるでしょ？ ほら、千円札に顔が載っている人。その夏目
そうせき えいご にほんご ほんやく あい
漱石がね、英語の”I love you”を日本語に翻訳するときに、『愛している』じゃ
なくて、『月がきれいですね』って翻訳したという話があるんだよ。まあ、証
こ じじつ じゃ ない かって ネットには書いてあるけどね」

「へえ、知らなかった。でも、なんで夏目漱石はそんな変な翻訳をしたのかなあ」

「多分、日本人は『愛している』なんて言葉、言わないと思ったからじゃない？」

カオルは笑った。ユキオも笑った。そして、こう言った。

「でも、『月がきれいですね』って言うだけで、好きだってことが相手に伝わる
かなあ。変だよ」

カオルは立ち止まり、しばらく黙って海を見つめながら、答えた。

「そうかもね。でも、こんな満月の下を、好きな人と一緒に散歩して、相手に月
がきれいだねって言えば、自分は今すごく幸せだってことぐらいは伝わるんじ
ゃないかな」

ユキオはくすつと笑って、こう言った。

「カオルって、意外とロマンチストなんだね。知らなかった」

ユキオはさらに続ける。

「ねえねえ、『月がきれいですね』って言われた場合、どんな答えが正しいの？」

『わたしもあなたのことが好き』っていうのはちょっと変だよ」

カオルはほほえみながら、答えた。

「ああ、いくつかパターンがあるらしいよ。まず、『今なら月に手が届くでしょう』っていう答え。あなたの好きだという気持ちは私に届きましたよ、って意味になるらしい。次に、『あなたと一緒に見るから、月がこんなにきれいなんでしょう』っていう答え。これは説明しなくてもわかるよね」

「へえ、おもしろい。じゃあさ、好きじゃないってことを伝えたいときはどう答えるの」

「それはね、『私には月が見えませんが』とか、『月に手が届かないから、きれいに見えるんですよ』とかあるらしいよ」

「わあ、そんなこと言われたら、ショックだね」

ふたりこえあを上げて笑った。

ユキオが家に帰ったのは10時すぎだった。ベッドにもぐりこんだユキオは、カオルのことをずっと考えていた。

ユキオは小さいころから一人でいることが多かったから、一人でいることが寂しいと思ったことはなかった。高校に入って、新しいクラスメートのカオルが後ろの席から、ずっとちょっかいを出してくることに、最初はちょっと面倒くさいとか、困ったとか、そういう気持ちになったものだ。でも、いつしか、そんなカオルのちょっかいを待っている自分に気がついた。カオルが話しかけ

てこない日は、なぜかさみしくなった。そして、カオルの姿^{すがた}をいつも目^めで追^おうようになった。カオルはいつもクラスメートたちに囲^{かこ}まれていたが、ときどき、クラスメートたちから離^{はな}れて、一人^{ひとり}で窓際^{まどぎわ}の席^{せき}に座^{すわ}り、遠^{とお}くをぼんやり見^みつめていることがあった。風^{かぜ}になびくカーテンの隙^{すき}間^まから見え隠^{かく}れしているカオルの横^{よこ}顔^{がお}を見^みつめていると、ユキオはなぜか胸^{むね}が苦^{くる}しくなった。自分^{じぶん}の中^{なか}の特^{とく}別^{べつ}な感^{かん}情^{じょう}にユキオが気^きづいたのは、高^{こう}校^{こう}1年^{ねん}生^{せい}の夏^{なつ}休^{やす}みが始^{はじ}まるころだった。

ユキオは思^{おも}った。明^あ日^す、カオルにメ^めモを渡^{わた}そう。メ^めモにはこ^かう書^かこう。

「昨日^{きのう}のお月^{つき}見^み、楽^{たの}しかったよ」

それから、「月^{つき}はずっときれいだっただよ」

同じ^{おな}ころ、カオルもベ^なッドの中^{なか}で、ユキオのこ^かとを考^{かん}えていた。高^{こう}校^{こう}に入^{はい}つてすぐ、ユキオのこ^きが気^きになった。いつも一人^{ひとり}で静^{しず}かに本^{ほん}を読^よんでいるユキオの周^{まわ}りには、ちよ^こっと声^{こえ}をかけにくい霧^{ふん}囲^い気^きがあった。そんなユキオの霧^{ふん}囲^い気^きをカオルはなぜか壊^{こわ}したくてたまらなくな^なった。だから、後^{うし}ろの席^{せき}から髪^{かみ}をひ^ひっぱった。黒^{くろ}くてまっすぐで、さらさらしたきれいな髪^{かみ}だった。ぱ^うつと後^{うし}ろを振^ふり向^むいたユキオはまっすぐとカオルを見^みつめ、眉^{まゆ}をひ^ひそめて、また前^{まえ}を向^むいた。カオルは面^{おも}しろくな^なって、何^{なん}度もそれ^くを繰^{かえ}り返^{かえ}した。自分^{じぶん}の中^{なか}の特^{とく}別^{べつ}な感^{かん}情^{じょう}にカオルが気^きづいたのは、高^{こう}校^{こう}1年^{ねん}生^{せい}の夏^{なつ}休^{やす}みが始^{はじ}まる頃^{ころ}だった。

カオルは思^{おも}った。今^{こん}晩^{ばん}、ユキオに私^{わたし}の気^き持^もちは伝^{つた}わっただろうか。や^やっぱり、

明^あ日^すちゃん^{ちゃん}とメ^めモを渡^{わた}そう。メ^めモに書^かく言^{こと}ば^ばはこれだ。

「^{きのう}昨日の^{つき}月はきれいでしたね」

それから、「^{きみ}君が^す好きです」

(2859^じ字)

(2022.8 Written by Yuki MORI)



この^{きくひん}作品はクリエイティブ・コモンズ ^{ひょうじ}表示 - ^{ひえいり}非営利 - ^{けいしょう}継承 4.0 ^{こくさい}国際 ライセンスの下に^{もと}提供されています。この^{きくひん}作品を利用する^{ばあい}場合は、「たどくのひろば」を^{しゅつてん}出典として^{しめ}示してください。

例) ^{れい}出典: 「たどくのひろば」 (<https://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.